

(2019～2021)

責任者名:藤原 康洋

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針 <人材育成の方針> 関学スピリットを軸とする者を育てる 1.”Mastery for Service”を体現する世界市民の“卵” 2. 共感性と「感謝・祈り・練達」を心得る者 3. 高等部・本大学で中核となる者 4. 多様性の社会を生きる生涯アクティブラーナーの基礎作り</p> <p><教育の方針> キリスト教主義に基づく全人教育を実践する 1. 一人ひとりの存在価値の尊重 ～人を全てそのままに 2. 心と体と知のバランスよい育成 ～人の全き成長を 3. 「師弟同行」～人が人を育てる 4. 「Kwansei コンピテンシー」の幹の涵養 ～向きあう姿勢(品位・誠実さ)・向きあう力(粘り強さ)・広がる心(共感性・多様性)・確かな学力(ICT 機器の活用を通して)</p>	<p>1.当該諸方針への理解が教員間で深まり共有されている。 2.「Kwansei コンピテンシー」の幹が涵養され、関学スピリットを軸とする生徒が育っている。 3.本大学生(OB/OG 含む)による学習や諸活動でのサポートを得ながら、左記の全人教育が実践されている。 4.学力三要素(知識・技能/ 思考力・判断力・表現力/ 学びに向かう力)が養われている。 5.高等部への進学者数が高位安定している。</p>
<p>2. 生徒獲得の方針 関学ファンを創生し獲得する 1. 入試の内容、及び出願手続きの継続的見直し 2. オープンスクールや学校説明会での訴求力向上 3. 学校案内冊子等の広報ソールの費用対効果に基づく改善 4. 高等部との広報連携の強化、及び高中一体の訴求力の向上 5. 初等部への中学部広報の継続</p>	<p>1.一般入試の倍率が2倍程度で維持されている。 2.学校の特色が効果的に伝わるオープンスクール等が実施され広報ソールが効果的に使用されている。 3.説明会等において高中教員が互いの学校について十分に説明できる。 4.初等部からの推薦入学者数が高位安定している。</p>
<p>3. 中期的課題</p> <p>1. キリスト教主義教育への教員の理解の深化 2. 教員の労働環境の改善を通した、ワークライフバランスの適切化と教育の質の向上 3. 新日程入試の安定的運用 4. 教員間の認識と注力のベクトル合わせ、及びそれを通した教育の質の向上 5. 高等部への進学者数、及び初等部からの入学者数の高位安定化 6. 多様性の精神の涵養 7. 初・中・高の連携強化</p>	

【重点施策】	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 「大学生メンター制度」の導入	○(21年度～)
③ 働き方改革に伴う諸施策	
④ 新日程入試の運用の精緻化、及び広報戦略の強化	
⑤ 教育方針や学校の課題の共有、及び主な課題の克服による、教育の質の向上 ～「Kwansei コンピテンシー」の幹の涵養を念頭に	
⑥ 多様性の精神の涵養に向けた、国際理解教育・英語教育・人権教育の充実	
⑦ 初・中・高の連携強化 ～全般的情報共有、及び教科連絡会等を通じた学力観の擦り合わせとカリキュラムの連携及び、高中教員の人事交流の活性化～	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

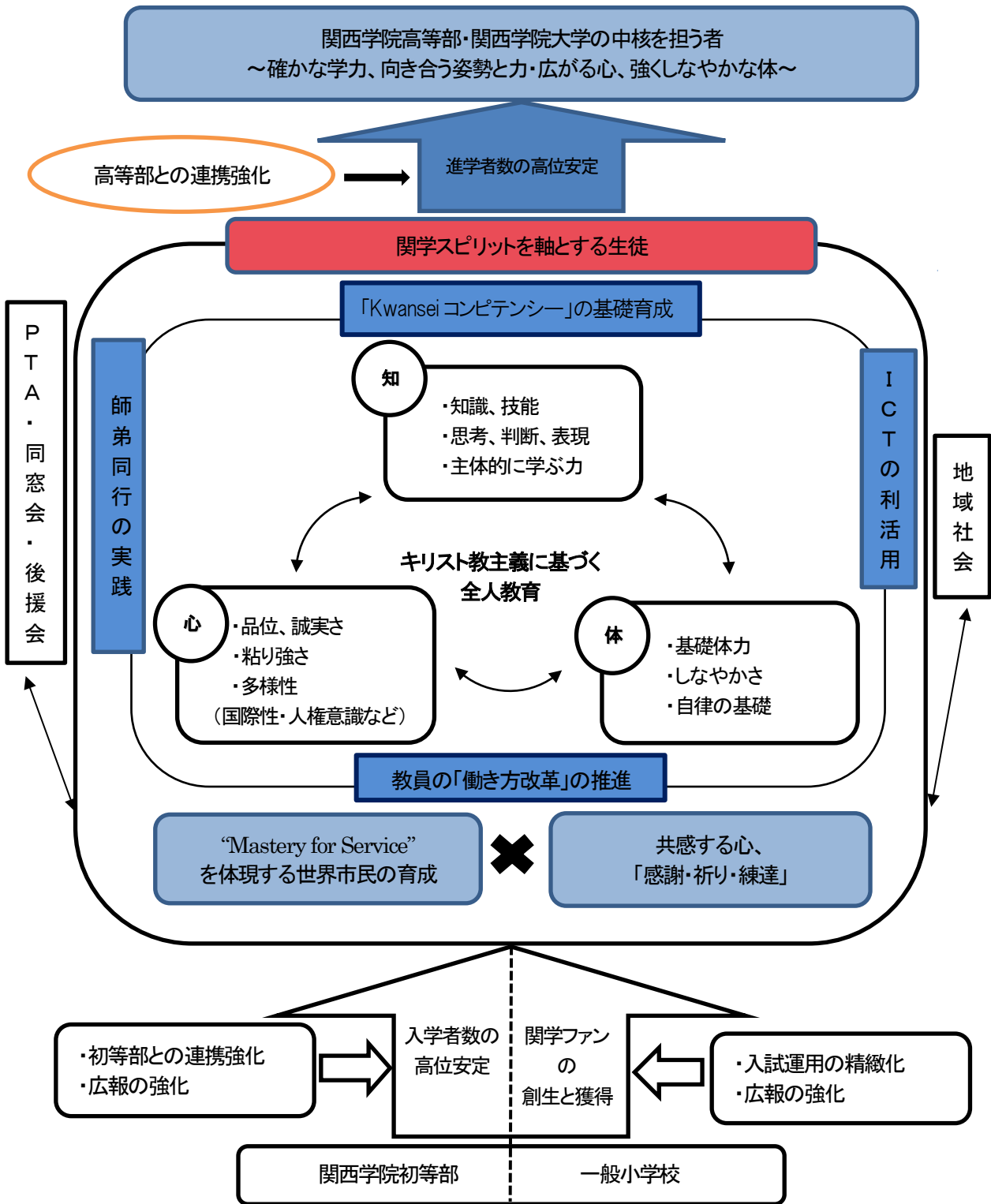
①スクールモットーの認知度・共感度、②メンター制度対象生徒へのアンケート調査(学習意欲)、③働き方改革の進捗度合い、④一般入試倍率、⑤方針や課題の共有、および課題克服による教育の質の向上、⑥-1生徒のアンケート調査(異文化への興味度)、⑥-2生徒のアンケート調査(英語4技能)、⑥-3教員対象のアンケート調査(人権や平和に関する生徒の知性と感性の養成)、⑦教員対象のアンケート調査(高等部との連携)

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2019年10月時点)

新日程入試のスムーズな実施に向けた準備がなされ、効果的な広報と相まって関学ファンが創出・獲得された結果、入試倍率が2.0倍程度となる。また、教育方針や学校の諸問題が教員間で共通に認識される中で、「Kwansei コンピテンシー」の幹の涵養を念頭に全人教育が推し進められ、多数の生徒が英語教育の成果を肯定的に実感し、国際理解教育や人権教育の推進などと相まって多様性の精神が育っている。さらに、教育活動の担い手である教員の「働き方改革」が着手されている。

【取り組みの全体像】

“Kwansei Grand Challenge 2039 長期戦略テーマ:「総合学園」の枠組み再構築及び特長ある一貫教育の創出”



以上